

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成29年1月13日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0873300511		
法人名	有限会社 カサブランカ		
事業所名	グループホーム カサブランカ大宮	ユニット名	新館
所在地	〒319-2135 茨城県常陸大宮市石沢1595		
自己評価作成日	平成28年9月28日	評価結果 市町村受理日	平成29年1月23日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&JigyosyoCd=0873300511-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成28年11月16日	評価機関 決 済 日	平成29年1月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>■特に力を入れている点</p> <p>①基本理念でもある「アットホームな雰囲気」作りを重視している。また、笑顔でゆとりある介護を職員全員が意識して利用者と接することを目指している。</p> <p>②高いレベルでの介護を実践するため、特に社員は全員、介護福祉士の資格、介護支援専門員又は社会福祉士の資格、認知症ケア専門士、キャラバンメイトを取得するなど常に向上意欲を持つように心がけている。</p> <p>■アピールしたい点</p> <p>他の施設とは異なり、家族経営の施設で、社長の娘3人とその夫が中心となり施設運営をしている。職場でもあり、家族が集う場所でもあり、それぞれの子供（小学生～高校生まで）が施設内で普通に食事したり、遊んでいたりと家庭的な雰囲気が入居者やそのご家族にも大変喜ばれている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>管理者は認知症ケア専門士や心理回想士の資格を有するほか、タクティールケアの研修を受講するなど自己研鑽し、職員への適切な指示や利用者に対するより良いケアの実践に努めている。</p> <p>職員のロッカールームに鍵のかかった意見箱を設置し、同僚に気兼ねすることなく希望休暇や意見を提案することができるよう工夫している。</p> <p>職員は毎月話し合っ「事故のないケアに取り組む」などの目標を定め、居間兼食堂に掲げて取り組んでいる。</p>

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	業務に入る前に必ず理念を読み上げて、ケアのあり方を確認し実践している。	経営者や代表者、管理者、職員で話し合い、地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を作成し、誰もが目にする玄関やユニットに掲示するとともに、朝礼時や申し送り時に唱和して共有を図り、実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所で地域住民と交流できる催しを行ったり、地域の老人会とも積極的に交流するなどの活動をしている。	年3回の事業所主催の芋煮会に、家族等や地域住民を招くほか、年1回公民館で開催する三世代交流会に利用者も参加し、子ども達とゲートボールや竹とんぼに興じたり、豚汁を一緒に味わったりしている。 地域の夏祭りでは子ども神輿が事業所に立ち寄ったり、幼稚園の鼓笛隊の演奏を聴きに出かけるなど、日頃から地域の一員として交流できるよう支援している。 オカリナや大正琴、踊りなどのボランティアを受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場を利用したり、ホームのイベントに地域住民の方々を招待して、話す機会を作ったり、実際のケアの様子等を見てもらふなどの取り組みを行なっている。また、地域老人会で予防体操やキャラバンメイトの活動をしている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方や利用者家族、市職員の方に事業所の取り組み、現状の報告をしたり、意見交換の場として活用している。また、特に試食会を行なうなど、よりホームの取り組みを理解してもらふように努めている。	運営推進会議は家族等の代表や市職員、民生委員、老人会長、地域住民、管理者、職員で2ヶ月に1回開催している。 事業所からは行事や利用者の状況報告のほか、事業所の取り組みなどを報告し、参加者と意見交換を行っている。 残存機能を活かした創作レクリエーションに、「ぬり絵をやってみてはどうか」との提案を受け、取り入れている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市のグループホーム協議会の会員となり、市の担当者を含めた会議に参加して、ホームの様子を伝えたり、運営推進会議に参加してもらうなど、協力関係を築いている。	市担当者が毎回運営推進会議に出席しているほか、管理者は電話だけでなく、直接市窓口に出向いて情報交換をしている。 事業所も参加している、常陸大宮グループホーム連絡協議会の研修会で、市担当者に行政の最新情報を伝えてもらうなど、連携を図っているほか、事業所の職員は協議会の役員を務め、研修会開催に向けた市担当者との連絡調整を図り、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は防犯のために施錠をしているが、日中は日中はいつでも出入りできるように開けている。 身体拘束をしないケアがホームの方針であり、社内研修などで共通理解をしてケアに取り組んでいる。	身体拘束排除のポスターを廊下の壁に掲示するとともに、身体拘束排除に関するマニュアルを作成し、職員がいつでも閲覧できるようにはなっているが、定期的に内部研修を行ったり外部研修に参加するまでには至っていない。 やむを得ず身体拘束を行う場合に備え、同意書や経過観察記録等の書類を整備している。	全職員が身体拘束をしないケアの重要性を再認識するために、定期的に内部研修を行うことを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について理解し、防止に努めている。 全職員に対して掲示板を利用しポスターを貼り理解、防止に努めている。研修会を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は地域包括センターと連携をとり日頃より日常生活自立支援事業や成年後見制度について意見交換している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、介護支援専門員が説明を行い、不安や疑問点がないか確認、相談しながら理解と納得をしていただけるように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所内に意見箱を設置している。運営推進会議や面会に来た際に直接要望を聞くこともある。家族会会長を第3者苦情受付窓口のひとつにしている。	重要事項説明書に苦情相談受付窓口を明記するとともに、事業所内に掲示するなど、家族等に意見や苦情を言える機関を周知している。利用者からは七夕行事の短冊に願い事を書いてもらう機会を利用したり、日々の会話の中から意見や要望を把握するよう努め、家族等からは電話や来所時に聴くよう努めている。 なかなか来られない家族等や介護記録を閲覧したいと希望する家族等に対し、無料でコピーを渡すようにするなど、家族等の要望を運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月例会議を行っている。業務での気づきやケアについて話し合いをしている。職員主催の親睦会も職員の声を聞ける場となっている（年4～6回）	管理者は月1回の職員会議や年2回の職員面接で、意見や要望を聞く機会を設けているほか、日頃から話し易い雰囲気づくりを心がけている。職員の提案を受けて、トイレ介助時のプライバシー確保のため、2階の利用者が使用するトイレの扉にカーテンを設置し、扉を開けた状態でも利用できるようにした。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況によって給与に反映されている。業務に対する水準を作り、向上心もてるような仕組みを検討中である。職員が職員を称える投票制度を実施し、向上心もてるように努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修を年4回程度行なっている。全職員を対象として、外部からの講師をお願いし、より専門的な話を聞けるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市のグループホーム協議会の会員になり、同業者との交流、情報交換を行っている。勉強会やキャラバンメイト等にも積極的に参加している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話に傾聴している。笑顔で接することも心がけている。出勤時、挨拶を行い本人が不安にならないよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意見、状況等を考慮して話を聴くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	できる限り本人とも話をして必要な支援に努めている。事前に介護支援専門員と連携を取り情報提供していただいている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯、掃除などの力を発揮できる場を作るように努めている。共に役割を持って生活しているのだと思っていただけるよう声かけ、対応に配慮している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームの一方的な面会時間等の設定は行わず、24時間出入りしやすい環境作りを行い、家族には普段の日常の様子を報告するようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、職場の同僚など面会に来ていただけるように声かけしている。実際に利用者家族以外の来訪も多い。家族の協力により定期的に外出して家の様子を見に行っている利用者もいる。	入居時の聴き取りや利用者との日々の会話などから、利用者が築いてきた馴染みの人や場所を把握するよう努め、把握した内容は個人ファイルに記載して周知している。 馴染みの理美容室や店での買い物に同行したり、自宅への外出や外泊、外食、墓参りなどに家族等の協力を得ながら出かけ、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、利用者同士の仲介役になり、孤立することのないように支援している。また、座席の配置にも配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスを終了しても、その後の状況について情報交換を行ったり、理美容や野菜をもらう、お見舞い、手紙（年賀状等）を送ったりしている。必要に応じて、相談や支援も行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメント、モニタリングのミーティングを開き、本人の意向に近づけられるように検討している。	管理者と職員は、利用者の表情や仕草、態度のほか、個人記録から一人ひとりの思いや希望の把握に努めるとともに、職員会議や引継ぎノートで周知して共有している。 意思疎通の困難な利用者の場合は、家族等に相談したり、表情や仕草などで思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、他の事業所からの情報提供からこれまでの暮らしの把握をしている。入所時に家族にセンター方式シートの記入をお願いしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	必要な場合には、24時間シート（センター方式の書類の一つ）の活用をしている。 介護記録に日々の変化を記録している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護支援専門員を中心に職員、家族、本人の要望を確認し、アセスメント、モニタリングを行っている。	介護計画は利用者や家族等の意向を取り入れるとともに、管理者や職員で話し合って計画作成担当者が作成し、家族等には利用料の支払いで来訪時に周知している。 基本的に1年毎の見直しとし、モニタリングは毎月行い、短期目標は3ヶ月毎、長期目標は6ヶ月毎に設定している。 退院時など、利用者の心身の状態等に変化が生じた場合は、随時モニタリングを行い、見直しをしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	モニタリング表を中心に、日々記入している個々の記録を、モニタリングに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その状況に応じて、サービス内容を検討している。 (家族の意向と本人の身体的能力が回復し、在宅に戻って生活しているケースがある)。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入所前の生活について聴き取りし、どのような暮らしをしてきたのかを把握している。 できる限りその生活に近い暮らしが送れるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を聴いて対応している。 家族が病院の付き添いを行う場合もある。	契約時に利用者や家族等に希望するかかりつけ医への受診が可能なことや、協力医療機関の医師をかかりつけ医にできることを説明し、確認を得ている。 受診は職員の付き添いを基本とし、家族等が同行を希望する場合には一緒に付き添っている。 受診結果は家族等に電話で報告するとともに、個人記録に記載して職員で共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は不在だが、主治医にその都度相談している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際には、家族、病院とよく話し合い情報提供をしている。特に退院する際には、病院で相談指導を受け適切な対応ができるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、医療関係者に確認し、事業所で対応できるかどうかを職員で話し合い、病院、家族と連携を図りながら支援している。	契約時に利用者や家族等に重度化や終末期、看取り介護について説明し、書面にて同意を得ている。 事業所は看取り介護を行うとし、重度化や看取り介護に関する職員の対応マニュアルを作成しているが、それに基づいて定期的に内部研修を実施するまでには至っていない。 看取りの状況は一人ひとり違うことから、その都度医師の指示を仰いで会議で検討し、支援している。	看取りや重度化に関して、定期的に研修会を開催することを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応について社内研修を行ったり、リスクマネジメント委員会を設置し、定期的に事故発生時対応策を話し合っている。職員全員が参加している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域住民の方から協力が得られるように運営推進会議で説明を行い、協力体制を構築している。 年2回避難訓練を実施している。	運営推進会議時に行っており、地域住民の参加を得ながら、夜間想定を含む避難訓練を年2回実施し、訓練の記録を作成している。 訓練後に話し合っ課題を明らかにしているが、次の訓練に活かすまでには至っていない。 災害に備えて米や水、缶詰などを一覧表を作成して、備蓄している。	訓練後に明らかにした課題を次回の訓練に活かすことが望まれる。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮した声かけができるよう意識付けするため、月間目標に関連する目標を掲げたり、職員同士で注意し合える環境作りをしている。また、声かけの仕方や場所等、プライバシーを配慮した対応を心がけている。	プライバシー保護に関する内部研修を実施し、職員は利用者の人格を尊重するとともに、自尊心に配慮した言葉かけを心がけている。 職員向けのマニュアルを整備しているほか、マイナンバーの取り扱いについて会議で話し合っている。 個人情報の取り扱いについては、契約時に家族等から書面にて同意を得ている。 個人情報に関する書類は、鍵のかかる事務室内に、利用者の名前が見えないように保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や思いが言いやすい状況作りや設問の仕方（はい・いいえで答えられるような質問）を心がけている。 言葉で意思表示ができない方の場合、表情や反応を見て対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の症状や希望を理解し、リスクを見極め個別で対応している。 散歩に行ったり、レクリエーションを行ったり、本人のやりたいことを行なうよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人の習慣に合わせて支援できるように本人、家族と相談しながら支援している。 本人に伺いながら、化粧水やクリームをつけたり、外出時等に口紅や服を着替えたりしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	片付けの一部を一緒に行っている。個々の食べたいメニューの希望を聞き、メニューに取り入れている。	献立は調理師免許を持った職員が、利用者の好物や苦手な物を踏まえつつ、自家菜園で採れた野菜を食材に取り入れるなど工夫をしながら立てている。 正月におせちなど、行事毎に行事食を提供しており、利用者はできる範囲で野菜の皮むきやテーブル拭きなどを一緒に行っている。 職員は利用者と楽しく話をしながら食事介助をしているが、一緒に同じ食事を摂るまでには至っていない。	事業所の特性を踏まえて、利用者と一緒に同じ食事を楽しめる環境づくりを前向きに検討することを期待する。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の摂取量を記入して、一人一人の状態を把握している。その人に合った声かけ、タイミングで食事や水分が勧められるように日々努めている。 摂取ができないときは、ゼリーやアイスなど摂取しやすいものに代えて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行うように声かけを行い、本人の能力に合わせて支援している。本人に行なってもらった後は、残食が口の中にか必ず確認を行なっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	できる限りトイレで排泄できるよう支援している。 1日の排泄時間を記録して、排泄パターンの把握に努めている。	職員は排泄チェック表を活用し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに、利用者の仕草やサインから察知してさりげなく声かけ誘導し、できるだけトイレで排泄ができるよう支援している。 職員の適切な声かけにより、リハビリパンツから布パンツに移行した利用者がある。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医に定期的に相談している。また、水分摂取に努め、1日1回の運動（体操）も心がけている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	月～土まで毎日3人ずつ入浴を行い、週2回は入浴できるようにしている。 できることはなるべく本人に行なってもらえるよう支援している。	入浴は週2回午後を基本とし、入浴を拒む利用者には強要はせず、時間帯を変えたりその利用者に合った声かけの工夫をするほか、柚子湯や菖蒲湯で季節感を取り入れるなど、入浴が楽しめるよう工夫しながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人が必要なときに休息できるように畳スペースを作ったり、夜は安心して休めるように本人の生活習慣の把握に努めている。 また、把握した情報と環境の変化、ストレス等に配慮して支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の目的、用法、用量、副作用について理解できている。 本人の状態、経過に関する日常の記録は介護記録に記入している。 服薬時は手渡しして、きちんと服薬できたか確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換に得意だった裁縫を楽しまれる方やみんなで歌を楽しむ方、それぞれが楽しむことができるように努め、イベント等も企画して実施している。役割としては、食事のあいさつを担当制にしたり、ADLに応じてテーブル拭きや掃き掃除、洗濯たたみ、洗濯干しなどできる範囲で行っていただいている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段は 行けないような場所でも、本人の 希望を把握し、家族や地域の人々 と協力しながら出かけられるよう に支援している	花見やイチゴ狩り、気の合う入居者 同士で外食や買い物等に出かけてい る。幼稚園の音楽隊を見学に行ったりしている。	天気の良い日には、週1回利用者と職員で事業 所周辺を散歩し、近隣住民と挨拶を交している。 年間行事計画を立てて車いすの利用者も一緒 に、花見やいちご狩りなど、普段行けないような 場所に出かけられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人ひ とりの希望や力に応じて、お金を 所持したり使えるように支援して いる	現在は、認知症が進行されている方 が多くなってきているため、お金を 常時所持されている方はいません が、目的、希望があれば所持でき るように支援する。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電 話をしたり、手紙のやり取りがで きるように支援をしている	希望により電話をかけている方もい る。定期的に絵はがきが届い たりもしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居 間、台所、食堂、浴室、トイレ 等）が、利用者にとって不快や混 乱をまねくような刺激（音、光、 色、広さ、温度など）がないよう に配慮し、生活感や季節感を採り 入れて、居心地よく過ごせるよう な工夫をしている	花や野菜をとり、飾ったりするなど 季節感を感じていただけるような環 境づくりを行っている。	事業所の玄関先で小型犬を飼っているほか、水 槽では金魚やめだか、熱帯魚を飼育しており、癒 しの空間となっている。 廊下にはベンチや椅子、テーブルを配置し、壁 面には行事の写真や利用者と職員で制作した切り 紙作品を掲示している。 居間兼食堂にはクリスマスツリーなどで季節感 を出したり、観葉植物を置いている。 居間やトイレ浴室などはいずれも清潔に保た れ、利用者が気持ちよく生活ができるように配慮 している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に椅子をおいたり、畳で休むことができるような場所を設置している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人の好みや持ち込んだ家具により、その人らしさが表現されている。落ち着くスペースになるように本人と相談しながら模様替え等を行っている。写真や植木、手紙や作品なども飾っている。	各居室にはカーテンやエアコン、ベッド、洗面台、クローゼットが備え付けられており、2階の居室は和室で畳敷きとなっている。 管理者は入居時に使い慣れた物品を持参してもらおうよう説明しており、利用者は家族等と相談しながら寝具類や筆筒、家族の写真、手作り作品、カレンダー、目覚まし時計、鏡台、化粧品などを持ち込み、居心地よく暮らせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各部屋のドアには表札をつけ、共用スペースのトイレ、お風呂には分かるように表示して場所が分かるように工夫している。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	1, ほぼ全ての利用者の ○ 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが ○ 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	1, ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム カサブランカ大宮

作成日 平成29年1月23日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	6	身体拘束排除のポスターを廊下に掲示している。 マニュアルを作成し、職員がいつでも閲覧できるようになっている。 定期的に研修をするまでに至っていない。	身体拘束11項目を全職員が理解する。	毎月の会議時に、身体拘束11項目を、全職員が暗唱する。 年間の内部研修に取り込み研修を行う。	1年
2	33	契約時に利用者や家族等に説明し、書面にて同意を得ている。 対応マニュアルを作成しているが、それに基づいて定期的に内部研修を実施するまでに至っていない。 看取りの状況は一人一人違うことから、その都度医師の指示を仰いで会議で検討し支援している。	看取りや重度化に対する基礎となる研修を開催する。	年間の内部研修に取り込み研修を行う。	1年
3	35	地域住民の方から協力が得られるように運営推進会議で説明を行い、実際避難訓練に参加していただいている。 年2回訓練を実施しているが、訓練後明らかになった課題を次回に活かすまで至っていなかった。	明らかになった課題を次回の訓練に活かすことができる。	課題を全職員が共有し、書面にて議事を残す。 課題点を把握し次回の訓練に臨む。	
4	40	片付けの一部を一緒に行ったり、個々の食べたいメニューの希望を聞いて取り入れているが、一緒に食事するまでに至っていない。	一人でも職員が一緒に食事をし、同じ食事を楽しめる。	食事の環境業務を見直し、一緒に同じ食事を楽しめるよう検討する。	3カ月 ～ 6カ月
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。